

放課後等デイサービス

こころぼ 子LAB

運動
支援

言語
発達

学習
支援

趣味
余暇
の充実

【子LABの支援の特徴】

個性に合った支援内容を大切に

- ① 専門医療職(理学療法士・看護師)が支援の中心に。
- ② ベテラン教員・講師が中心に学習の支援を行ないます。
- ③ 多くが日本 LD 学会に所属し、特別支援教育士を目指しています。
- ④ 楽しく生活が送れるよう趣味・余暇の充実を図ります。
- ⑤ システムエンジニアと理学療法士等が個性に合わせた就業の支援や就業環境の設定もお手伝いします。

運動支援・リハビリテーション

- ・就学に必要な運動スキルの支援、実用的な使用の支援
- ・好きな事、やりたい事を自分なり、実用的にできるための支援
- ・医療職によるリハビリテーションや医療的ケアを行う支援



言語発達の支援

インリアルアプローチと JASPER アプローチを参考にした、子どもが主体的に活動する中での支援。

学習支援／プログラミング教育

読み書き障害、学習障害や発達障害に併存する困難に対する支援プログラム。認知特性を把握、個人に合わせ支援を行います。



趣味・余暇の支援

個性に合わせた、生活を楽しく充実させるための趣味・余暇が目標

NPO 法人 HA-HA-HA

〒514-0042 津市新町 1 丁目 1-16 1F

☎ 059-229-1515



<http://www.npo-hahaha.jp>

※右 QR コードは HP の URL です。



運動支援について

運動機能の専門家が在籍、小児理学療法学会、日本DCD学会、感覚統合学会 etc に所属、専門性の向上に努め、利用者が主体的に楽しく継続できる支援を目標としています。

姿勢が悪いから体幹を鍛える、不器用だから課題を繰り返す…など、安易に考えず、トロント大学発 CO-OP アプローチを参考にするなどし、有効な支援の実施に努めます。これらの体制が整うには時間と労力が必要ですが、不十分でも丁寧に評価し支援を実施します。

また肢体不自由児の受入も可能です。体の機能は認知機能にも関連し、補助手段を含めた行動スキルを獲得することは認知機能の向上にも繋がることが近年わかってきています。

学習支援について



子LABは学習支援に力を入れています。日本LD学会に所属し、特別支援教育士(S.E.N.S)の取得を目指し、専門性を向上させています。また大阪医科大学LDセンター講習会を中心に継続した研鑽をしています。

学校のように集団では捉えきれない、読み書き障害や不注意、視覚・聴覚的特徴など、個別の特徴、認知特性に注目して丁寧に支援していきます。

また苦手な力の獲得を目的として、デジタル機器の利用を中心とした学習環境の設定も行います。これらを活用することで、苦手な力を獲得し、学習など目的とするものに集中できる環境を整えます。

プログラミング教育について

プログラミング習得は就業などに一定の役割を果たしそうです。しかし学習支援同様の困難、さらに負荷となる可能性もあります。子LABはプログラミングとロボット製作&制御、3Dプリンタでの製作などプログラミングに視覚的な楽しみの要素を加え、本人が楽しく、自ら学習していく環境・サイクルをプログラミング教育に期待しています。

言語発達の支援について

『りんご!』と指差しています。どういう意味か。外にリンゴがなっている、お皿に剥いたリンゴがある、これらは意味が違います。語用論という考え方です。これらは子どもが主体的に活動し、支援者は応答的に支援する中でしか発生しないシーンです。その環境で言語発達の促しが必要と子LABは考えます。

言葉を言わせる、絵カードをやるなどだけではなく、子ども発信でコミュニケーションし、それを支援者が補足し、状況に即したコミュニケーションの経験を多く積む支援を行います。米コロラド大学発のインリアルアプローチという考え方を参考にしています。

またUCLA発のJASPERという考えも参考にしています。コミュニケーションを『要求』・『共同注視(共有)』・『遊び』の3スキルに分類し、さらに細分化して評価し、支援に活用するものです。これらをJASPERに向けて環境設定された個室で個別に支援を行います。より子どものコミュニケーションの力に注視でき、有効な支援であるとし、子LABは研修会参加や内部講習を実施しています。

趣味・余暇について

日本の教育の問題点として、集団行動を求め、没個性となりがち、などがあります。

現在、趣味・余暇を持たない障がい児者が多いことが現実となっています。『趣味・余暇』…難しいようですが、それらは生活を充実させ、楽しく過ごすことができるという意味で捉えています。

一人でも熱中し、没頭することが生活を充実させるだけではなく、ストレスを下げ、またそれらが取り持った少なくとも素晴らしい友人の発見などに繋がるかもしれません。

趣味・余暇を持つにはどうすればよいかを一緒に考え、個性に合わせた支援を楽しく行っていければと思っています。